

令和4年度 学校評価 自己評価書（三学期）

1 学校の重点目標

(1) キャリア教育の充実
(2) 確かな学力の定着
(3) 心に届く生徒指導
(4) 健康・体力向上の推進
(5) 特別支援教育の充実
(6) 人権教育の充実
(7) GIGAスクールを踏まえたカリキュラム・マネジメント
(8) 信頼される学校づくりと業務改善の推進
(9) 小・中の連携の充実

2 課題と改善策

	評価項目	職員	評価結果と改善方策
力の 確かな 学力の 定着	1 各種調査による学力の実態把握	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 鹿児島学習定着度調査分析の研修を行い、授業改善に活かしていくことを確認した。 タブレット端末を春休みに持ち帰ることで、学習内容の復習に使えるようにした。
	2 「WEB システム」の評価問題の実施	3.1	
	3 個別最適な学びの取組	3.0	
	4 授業の振り返りの活動	3.3	
生徒 心に 届く 指導	1 積極的生徒指導の実践	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 来年度は不登校対応の一環として、新たに「サポートルーム」を開設することで、教室に入れなかったり、短時間でも登校したりしている生徒への学習支援の充実を図る。
	2 いじめの未然防止や早期認知	3.5	
	3 特別活動の工夫	3.1	
	4 不登校・不登校傾向生徒への支援	3.4	
向上の 健康・ 体力の 推進	1 基本的な感染症予防の実践	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 昼休み中の生徒同士の接触によるケガが起きており、校庭の使い方を確認する必要がある。 生徒会保健部による健康カードの集計結果から、「早寝・早起き」について引き続き取り組む必要がある。
	2 体力等の向上	3.3	
	3 生徒の安全意識の向上に関する取組	3.4	
	4 S S Tの授業の実施	3.3	
教育の 特別 支援 の 充実	1 個別の支援計画・指導計画の作成と活用	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 個別に配慮が必要な生徒の引継ぎを確実にを行うことを確認した。
	2 チームによる支援体制の確立	3.0	
	3 S Cや相談員、関係機関との連携	3.3	
人権 教育 の 充実	1 M o mを踏まえた生徒理解	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 全職員で道徳の授業を行う仕組みが定着し、内容項目の確実な実施ができています。 職員研修で、「1年後に目指す学校」について考え、生徒や学校の良さについて職員が語り合う場を設けた。
	2 学校全体での道徳の授業の実践	3.4	
	3 言葉の重みへの意識の向上	3.2	
	4 良さに着目した生徒理解	3.2	
マ ネ ジ メ ン ト	1 指導と評価の一体化	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 春休みに端末の持ち帰りをを行い、校務支援ソフトに生徒が使っているタブレット番号を登録することで、学級編成後も引き続き同じ端末を使えるようにした。
	2 G I G Aスクールに必要な技能の習得	3.3	
	3 授業における生徒のタブレット活用	3.2	
学 校 づ く り	1 勤務時間を意識した業務改善	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 各種通信による情報発信は、保護者アンケートからも高い評価を得ている。
	2 服務規律の厳正確保	3.5	
	3 保護者や地域への情報の発信	3.5	
	4 校内の設営の工夫及び整理整頓	3.3	
連 携	1 小中間の情報交換や共通実践事項の実践	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 6校PTAを対面で開催し、来年度の行事調整や小中連携研修会の日程を調整した。

※ 職員の評価は、学校全体の取組を4段階で評価し、その平均値を示している。

3 来年度に向けての取組

- 不登校対応の組織的見直しを行い、新たに「不登校支援コーディネーター」を位置付けたり、「サポートルーム」を開設したりすることで、生徒の学習保障に取り組む。
- 学習eポータルサイト「まなびポケット」を使って欠席連絡や学校からのお知らせを配布できるように準備を進めている。
- 第2学年において、総合的な学習の時間の探究学習のカリキュラム開発及び実践を行っていく。